

平成 29 年度全国体力・運動能力調査 笠間市の結果について

《平成 29 年度全国体力・運動能力調査の概要》

1. 調査の目的

子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

2. 調査の名称

「平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

3. 調査の対象とする児童生徒

小学校第 5 学年および中学校第 2 学年

《笠間市平均と全国平均および茨城県平均との比較》

小学 5 年生

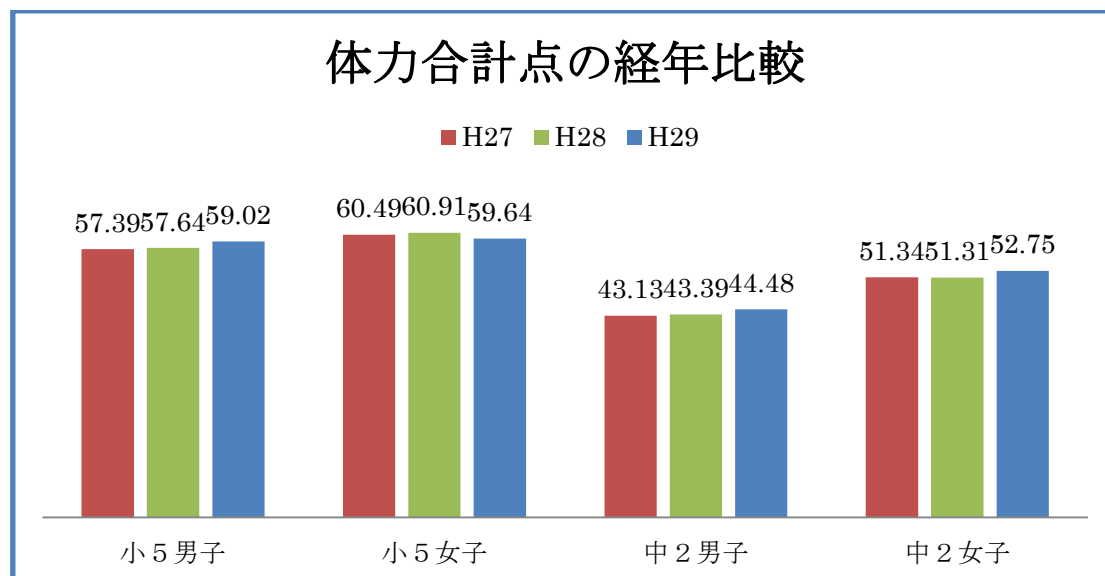
小学 5 年生では、男子はソフトボール投げを除く 7 種目、女子は全 8 種目で全国平均を上回った。茨城県平均と比較すると、男子は全 8 種目、女子は握力・50m 走・ソフトボール投げを除く 5 種目で笠間市平均が上回った。

中学 2 年生

中学 2 年生では、男子は全 8 種目、女子は反復横とびを除く 7 種目で全国平均を上回った。茨城県平均と比較すると、男子は上体起こし・20m シャトルランの 2 種目、女子は握力・上体起こし・20m シャトルランの 3 種目で笠間市平均が上回った。

《笠間市の経年比較(体力合計点)》

笠間市では、小 5 女子を除く調査対象で前年を上回った。



≪笠間市の課題および学校の取組≫

小学5年生

男子は8種目中7種目、女子は全種目で全国平均を上回った。また、都道府県別平均全国第2位の茨城県の値を上回っている種目が多く、高い水準にあるといえる。各学校では、中休みや昼休みに縄跳びやランニング等の全校運動を実施している。また、サーキットトレーニング（うんていや登り棒、鉄棒など複数の遊具を回っていく運動）を導入し、握力を含めた筋力の向上に取り組んでいる学校も多い。これらの取組が跳力や長距離走力、握力の向上に繋がっているとみられる。

中学2年生

男子は全種目、女子は8種目中7種目で全国平均を上回った。中学校では走力の向上に努めている学校が多く、その効果は20mシャトルランや50m走の記録に現れている。課題が見られるのは反復横とびや長座体前屈である。準備運動時の十分なストレッチの実施や、個人の運動能力に合わせたトレーニングメニューの作成といった柔軟性や瞬発力の向上に対する取り組みが必要である。

小中学生とも、運動能力には個人差があることから、自分自身で楽しみや課題を見つけ、運動に主体的に継続的に取り組むことが重要である。そのために、学校では動機づけとなるような環境の整備や、授業の質を高めるなどして児童生徒の意欲や体力を引き出していく必要がある。